

開 議

○鈴木富美子議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、ございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

ここで、本日の本会議運営について議会運営委員会の報告を求めます。

平 進介委員長。

(平 進介議会運営委員長登壇)

○平 進介議会運営委員長 おはようございます。

議会運営委員会を代表いたしまして、昨日の委員会において決定した本日の本会議運営についてご報告いたします。

本日の会議は、日程第1、議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正について、市長から訂正理由の説明を受け、質疑、討論、表決を行っていただきます。

なお、表決の方法は、起立採決を予定しております。

議事日程第5号による本会議終了後に予算特別委員会を開催いたします。

以上、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます、報告といたします。

○鈴木富美子議長 本日の会議は、ただいまの議会運営委員長報告のとおり、配付しております議事日程第5号をもって進めます。

日程第1 議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正について

○鈴木富美子議長 それでは、直ちに本日の会議に入ります。

日程第1、議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正についてを議題といたします。

訂正理由の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○内谷重治市長 おはようございます。

初めに、このたびの提案に際しまして、大変ご迷惑をおかけしましたことに、心からおわび申し上げます。

8月の産業・建設常任委員会協議会をはじめとして、9月定例会が開会してからも、議員の皆様による勉強会、そして、全員協議会等とご多忙のところをお時間をいただき、補正予算についてご協議いただき、ご意見等々を頂戴しておりましたが、このたびの9月定例会でご承認いただくには時期尚早と判断いたしましたところでございますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、議案の訂正についてご説明申し上げます。

去る9月4日に提出いたしました議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号について、議案の訂正をいたしたいので、長井市議会会議規則第19条第1項の規定により、議会の承認を求めるものでございます。

訂正の内容でございますが、歳出予算の7款1項2目商工振興費に計上しておりました産業振興交流拠点施設物価高騰対策補助金972万5,000円の補正部分を削除し、これに伴い、歳入予算の財政調整基金繰入金の補正額を同額減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ183億6,359万1,000円といたすものでございます。

今後、より一層丁寧な説明を尽くし、改めて提案させていただきたいと考えておりますので、

何とぞご承認賜りますようお願い申し上げます。

○鈴木富美子議長 説明が終わりました。これから質疑、討論、表決を行います。

なお、質疑につきましては、さきの議会運営委員会において、一問一答の方式により行うこととし、質疑の時間は、1人当たり答弁を含めて60分と決定いたしましたので、ご協力をお願いいたします。

先ほどの市長の説明に対し、ご質疑ございませんか。

13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正についてお伺いをしてまいります。

このたびの訂正といいますか、撤回、一部撤回ではないかと思えます。議会運営に関する本などを見ますと、訂正とは、提出された事件の内容、字句、表題等に誤りがあることを発見したため、その内容、字句、表題について、その誤りを正すために変更、訂正、修正することであると書かれているようです。訂正するのであれば、通常は、正誤表などがあるべきと思いますが、このたびは何も配付されておられません。議会事務局を通じて、訂正前と訂正後が分かる資料を出してもらいたいとお願したところですが、忙しくて出せないということだったようです。もっと丁寧に真摯に向き合っていたいただければと思います。

このたび、当局が訂正として申し入れている箇所は、7款商工費、2目商工振興費の014産業振興交流拠点施設事業の産業振興交流拠点施設物価高騰対策補助金972万5,000円をそっくり削除するということですので、訂正ではなく、言ってみれば、一部撤回という表現が当たると思えます。そのため、これからの質疑では、撤回という言葉も使わせていただきたいと思えますので、よろしくお願いをいたします。

なぜ、訂正、撤回をしなければならなかった

のか、市長の提案説明では、時期尚早だからという理由だけで、具体的な理由が述べられておりません。議会に上程された議案は、それなりに重みのある案件として取り扱われますので、軽々に訂正、撤回はできないと思えます。それをあえて訂正されたので、その背景と理由について、経緯を含め、お聞きしていきたいと思えます。

撤回する場所は、ただいま申し上げましたように、7款1項2目商工振興費に計上している産業振興交流拠点施設物価高騰対策補助金972万5,000円に関する部分を削除するというものであります。この補助金972万5,000円を補正する理由として説明を受けているのは、指定管理施設であるタスビルにおいて、物価高騰における施設利用料の高騰を抑え、市民などの施設利用者の負担軽減を図るというものであります。積算根拠は、電力については、令和6年5月と令和3年5月の単価差額9円に年間使用量を掛けて算出した金額、重油については、同じように令和5年5月と令和3年5月の単価差額25円に年間使用量を掛けて算出した金額の合計額としております。

去る9月4日に開催されました市議会議員全員による勉強会において、担当課長からは次のような説明がありました。ここに来て、運営経費がどうしても収入を超える状況が続いておりまして、ホテルの経営自体が厳しくなっているという状況でございます。また、結果的にこの9月議会の補正予算については、物価高騰対策という名目で上げさせていただきましたけれども、ランニングコストの負担支援という形が主な目的でありますとの説明でありました。この説明から、タスパークホテルの運営が非常に厳しく、目先の支払いも滞ってしまうというような感じを受けたところであります。

議員からは、新しい経営体制になる前からどういうふうに改善されてきたのか、そういうこ

とも併せて出してもらわないと、経営陣の努力というのは全然出てこない。また、実際の数字で推移を見せていただいて、そのための努力を何をしたのかということ併せて示してもらいたい。また、経営陣の責任、これから資料を作らなければいけないということは経営上の怠慢だといった強い意見が出されたところでありませぬ。こうした強い意見が出されたところではあります、議員の皆さんもタスビルを存続していかねばならないという認識は持っておられると思います。

私も、建設するまで様々な意見があったにしても、建った以上は、何とか頑張って運営していただきたいという気持ちであります。ただ、その手法について、議会にも市民にも丁寧に説明をしていただいて、それぞれが納得のいく方法でタスパークホテルが運営していけるようにしていかなければならないと思っております。そうした視点での質問ですので、よろしく願いをいたします。

まず最初の質問ですが、令和3年12月定例会の予算委員会での私の総括質疑に対し、市長の答弁は、タスパークホテルの運営について、ランニングコストは全て持ってまいります。また、スタート時点から赤字というのは一切ないと考えておりますと、そう答弁されておられます。令和4年4月から株式会社タスパークホテルを指定管理者として運営を始めて、今月でまだ2年半しかたっておりませぬ。それなのに、赤字運営となったのは、新たな経営陣が立てた経営計画が甘かったということではないかと思うわけですが、このたび、市長におかれては、そうした点に対する配慮があって、訂正をしたと考えてよろしいのでしょうか、市長に伺います。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えを申し上げます。

平 進介議員からは、まさに根幹の部分でございまして、それをしっかりと説明をして、か

なり意見交換をしないと、大変恐縮ではございますが、予算委員会だけでは到底ご理解いただけないと私は考えまして、撤回ではなくて、取り下げでございませぬ。このたびは取り下げさせていただいて、やっぱりしっかりと事前に資料なども提供させていただきながら、私どもの、私どもっていいですか、私の考えも甘かった部分も含めて、おわびをしながら、説明を尽くして、その上で、もう一度提案をさせていただきたいと考えたところでございます。

議員おっしゃっている令和3年12月について、確かにそういうお答えをしました。現在、例えば令和3年、令和4年、過去の例ですと、令和4年で1億3,000万円から4,000万円ぐらいの全体の1年間のランニングコストでございます。そのうち、ホテルの部分が約6割ぐらいの負担をしていただいていたと、あと残りの大部分が地場産業振興センターということでございませぬ。

そして、それについては、長井商工会議所が経営されていた、全株を長井商工会議所が持ちだったわけですね、その資料などを見させていただきますと、コロナで大変厳しい状況ではございましたけれども、山形県と我々市町村一緒になって、応援するための融資、いろいろ、ゼロゼロ融資ですね、こちらタスパークホテル、商工会議所さんのほうで融資を受けながら、何とか赤字にならないように、運転資金がショートしないようになさっていたと。大変ご苦労があったってことは分かっておりますが、それで、私どもとしては、商工会議所さんが3,000万円の出資をしてつくった会社でございませぬけれども、これ100%、商工会議所さんの持ち株会社ということなんですが、それを私ども長井市と地場産業振興センターも一緒になって経営していく必要があると。

その前から申し上げますと、それをなぜ決意をしなきゃいけなかったかということ、ご承知のとおり、昭和62年の建物でございますので、も

う令和3年の時点で35年目でございます。通常、ホテル業界の一般的な考え方として、20年から30年で大規模改修をしなければいけないと。それは光熱水費、まあ水回りであったり、あるいは内装であったり、あと時代に合ったリノベーションもしなければいけないということで、それをしていかないと、タスパークホテルだけではなくて、あのタスビルの5割強を持っている地場産業振興センターの経営も立ち行かなくなり、なおかつ昨年の暮れに山形のあのホテルが閉めてしまいましたけども、シティホテルが、40年が限度だと。

したがって、このままですと、あと5年ないし10年ぐらいである建物っていうのは何らかの形でクローズをせざるを得ない部分も出てくると。それを避けていかないと、議員おっしゃるように、過去の例を見ますと、昭和62年に建築をして、その際に長井商工会議所と地場産業振興センター、それから山形県の信用保証協会、そして地元資本による、民間企業によるホテル、これが合築したわけございまして、それに、こういったいろいろなやっぱり市民からの反発などもあって、その当時の市長から次の市長に替わったと。

ただ、その次の市長もタスについては非常に批判的でしたけれども、これは市の財産として残さなきゃいけない、なおかつ地場産業振興センター、これを生かさなきゃいけないというご判断だったと思いますが、従来どおり支えてきていただいて、またその次の市長もそれを継投して、途中、ホテルを経営した会社が、長井商工会議所の当時の会頭でございましたけれども、倒産ということになりましたけれども、それでも、やっぱり長井商工会議所が英断をして、何とかこれは長井商工会議所で持って、産業振興の拠点として存続させなきゃいけないんだと。それは、まあ、具体名で言いますと、齋藤市長から平市長、それから目黒市長と、ずっ

と同じような考え方で頑張って、長井商工会議所と一緒にあって、あのビルを存続させてきたわけですね。

ただ、もうここに来て、あと5年、10年だと、したがって、私どもとしては、財源的なものが非常に厳しいので、当時の地方創生の拠点整備、ハードタイプの補助事業を目指して、チャレンジしたわけでございます。地場産業振興センターの部分5億円、それからホテル部分約15億円、合計20億円のリノベーション、大規模改修することによって、次の世代にしっかりとこの機能を、この建物を引き継いでいくという決意をしたところでございますが、残念ながら、地場産業振興センターは、令和3年ですか、おかげさまでご採択いただいて、リノベーションすることができました。しかしながら、タスパークホテルの部分については、国の採択として認められなかったと。

その理由をいろいろ探る、あるいは情報収集しますと、長井商工会議所が経営していたタスパークホテルの経営状況がよくないと、大変厳しい、そういう民間の施設に国の補助金を入れるのはいかがなものかというような第三者の意見があったと伺っておりまして、そんなことから2回目、チャレンジしました。そして、その際も同じような判断で、結局、商工会議所さんが本当に頑張っていたんですが、やっぱり我々市も一緒にあってこれを支える必要があると、そうでないと、地場産業振興センターも生かしていけなくなるという判断から、ホテルの部分を市で取得して、商工会議所さんがかなりご負担していた部分を軽くしていただきながら、今度はやっぱりコロナが明けた後の長井市の産業振興であったり、観光文化、交流の振興であったり、そういったところを商工会議所さんと一緒にあってやんなきゃいけないということで、議会のほうのご判断もいただいて、市のほうで取得させていただいたというのが令和3年度で

ございました。それによって、3度目の挑戦で、令和4年度に採択いただいて、令和5年度にリノベーションを果たすことができました。

ただ、誤算は、コロナがもう少し続くものと考えて、令和3年度にチャレンジしたんですが、結局、採択を受けたのが2年後の令和5年、補正ですので、令和5年度の工事だということで、タイミング悪く、コロナが5類に移行したということで、開業しながら休業状況になってしまったということで、その部分が非常に大きかったのかなと思っております。

また、長くなって恐縮でございますが、令和4年の4月より、議会からもお認めいただいて、市の1,000万円の出資と、それから地場産業振興センター1,000万円の出資をして、引き継いだんですが、そのときには、しっかりと精算してほしいと申し上げておりましたが、書面では、取り交わしておりませんでした。これが後になってみると非常に誤算だったのかなと。もう我々の入る前に中に入って、財務状況をしっかりとやっぱり見る必要があったんだなと思っております。

こちらについては、商工会議所さんに対しての否定となる部分も出てまいりますので、詳しいことはまた次の機会と思っておりますが、結果として、私どもが引き継いだときに、いきなり運転資金のマイナスの部分からの始まりでした。私としては、我々の出資した2,000万円はどうしたんだと、ところが、はっきりした回答が得られないままにスタートしてしまいました。

そんなこともあって、やっぱりこれは商工会議所さんの名誉もありますので、やっぱりしっかりとその部分をもう一度私どもがお願いして、状況を確認しながら、議会のほうにもお示しして、そして、市民の理解を得ながら、当面厳しいと思います。

それなにかっていうと、以前にも一般質問等々でお話しさせていただきましたが、一番最

初がハイマンタスホテルだったんですね。その当時の経営者は、もちろんハイマンから社長とか出てましたし、ハイマン電子グループの中から非常に優秀な職員が日航成田のほうにも研修にいらしたそうです。あとはオークラとか、そういったところでいろいろ研修をして、そしてスタートしたんですが、それらの社員がもう定年退職の時期だったんですね。ちょうど入った時点でチェンジどんどんしていたところで、人が、残念ながら経験者がほとんどいないと。

ですから、私ども、地域おこし協力隊としてお願いしました辻田総支配人のお話からお聞きしますと、自分が着任したときに経験者はゼロだったということでございます。したがって、人員体制からもう一回再構築しなきゃいけなかった。あの折には、タイミング悪く、コロナで大分ホテルとかサービス業界から違う業種に転換した人が非常に多くて、人材を確保するのも大分苦勞されたということもあって、こういった状況などを一つ一つ分析しながら、議会の皆様からご納得いただくには、もう予算委員会、1日の予算委員会では到底不可能だと、1日、2日では不可能だという判断から、産業・建設常任委員会の協議会での意見やら、あるいは全員協議会でお話しされていたいろんな議員の方のご意見などをお聞きしまして、ごもつともだと。それでは、やっぱりもう一度、私ども、一から内部のことを商工会議所さんからお聞きしながら、いい形でこれから議会のご了承を得て、そして、市民にも応援していただきながら、頑張っていたきたいということで、今回、取下げをさせていただいたところでございます。

もつともつと理由があるんですが、例えば、私そもそも……。

(「この後もお聞きしますから」の声あり)

○内谷重治市長 そうですか。ただ、一番の理由のもう一つが、簡単に申し上げますと、今のまま、商工会議所さんが経営していたタスパーク

ホテルの状況ですと、この長井、せいぜい西置賜の地域のお客様を奪い合うんですよ、民間企業と、地元の企業と。それでは駄目だと、しっかりした営業体制を整えて、少なくとも県内、東北、あるいは首都圏からしっかりとしたりやったり顧客を獲得しなきゃいけない。やまがたアルカディア観光局もあるんですが、それも十分機能してないと、そういったところも含めて、今回は考えたところでございまして、様々な、私はこれから力を入れていかなきゃいけない、反省しなきゃいけない部分があるかと思しますので、ぜひいろいろご指導を賜りたいと思います。

大変長くなって恐縮でございます。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 長く説明をしていただいたわけですが、私が申し上げました経営陣が立てた経営計画が甘かったということに、こうしたことも今回の取下げの理由ではないかと考えておられるのかどうかというふうな質問をしたわけですが、その辺の答弁のところについては、まあ、あんまりなかったのかなと私感じたところですよ。

今、市長答弁された中身、少しかぶるかもしれませんが、よろしくをお願いします。

次にですが、市長はこのようにも答弁されておられます。例えば赤字出た場合は、出資割合に応じて赤字補填するののかということですが、基本的には、まずもし仮に、今回みたいなコロナ禍で大変な状況になったときには、これはタスパークホテルで借入れをすると、その場合、市のほうの損失補償ですね、そういったことは基本考えていないと、それはあくまでもタスパークホテルで三者で解決しなきゃいけない。市もその一端を担いますけども、そういうふうにご考えておられますと答弁されておられます。

その考え方であれば、このたびの訂正された補正予算の部分については、市長が三者と言わ

れた長井市、商工会議所、地場産業振興センターで応分の負担をして解決すべきと思うわけですが、市長におかれましては、そうした点に対する配慮があつて、訂正をしたと考えてよろしいのかどうかお伺いいたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

先ほどの質問に答えてなかったということでございますが、まず、一つ反省しなきゃいけないのは、私どもは、全く地場産業振興センターと長井市がメインでやらざるを得ないだろうと、経営計画っていうのは、新しい社長含めて、新しい取締役会の中で計画を出してつくるものですが、そういったものは示されなかったと。

それから、融資については、前の商工会議所さんが経営されていたタスパークホテルをそのまま引き継いでます。それはなぜかっていうと、負債があるわけですね。まずはゼロゼロ融資の1億円、それから運転資金も、はっきりは分かりませんが数千万円あったと、それらが残っているために、本来であれば、別会社をつくってやりたかったんですね。ところが、それができなかったんですよ。

それはなぜかという、商工会議所さんのほうの会社がなくなるわけですから、その融資は全て返済しなきゃいけないと、それは商工会議所さんの場合は、詳しくは分かりませんが、察するに個人保証であろうと。そうしますと、役員の方にその1億数千万円がかかるわけですから、これは大変な困難になるということから、引き受けざるを得なかったと、そのまま。

そして、融資については、私ども長井市と地場産業振興センターが入り、なおかつ、今までも黒字ということで、私どもは決算書類等々を見て、そういうふうにご考えておりましたので、なかなか大変だろうとは思ってたんですが、うまくやりくりして赤字ではなかったと、そういうふうにご考えておりましたので、当然、運転資

金等々は新しい会社で、多額というのは難しいかもしれませんが、受けられる可能性は高いと思ってたんですが、残念ながら、やっぱり以前からのタスパークホテルを引き継いでますので、融資は非常に厳しかったということがあります。

したがって、責任、じゃあ、こういう状況を招いた役員の責任状況はどうかというと、実は、令和6年になって、何とか人員のほうも足りなくて、もっと本当はシャロアなども夜とか運営もしたかったり、あとは休みもなしにやりたいんですが、人が確保できなくて、運営できなかったりと、こういう問題が、まあ、以前考えられなかった状況になっておりまして、したがって、人などもどんどん確保してきたんですが、やっぱり経営状況が非常に厳しいということで、この9月に実は一旦、社員の中でもある程度年配の方などについては、やっぱり辞めていただくざるを得ないと、そして時間外などもできるだけしないように、人件費をカットしなきゃいけないということで、社長については報酬を全面カット、それから専務取締役については降格等々の、そういった措置を取りながら、社員一丸となってこういう厳しい状況を、何とか赤字を縮小できるように頑張っていこうということで努力しているところでございます。

したがって、これ、本当に一つ一つお話ししますと、やっぱりいろいろ議論しながらやっていかなきゃいけないんですが、私どもも、さすがに商工会議所さんがなさっていた会社なので、ある程度、安心しておったんですが、実情はやっぱり相当厳しかったと。ですから、以前から商工会議所さんだけにそういう思いはさせてはならないと、やっぱり歴代の市長、あるいは歴代の長井商工会議所の会頭、あと市民も大部分の方はタスってというのは、もうどんどん中心市街地が寂れていく中で、唯一何とかこの民意を保つのがあのタスだという方が、そういうこと

をおっしゃる方が大変多かったわけでございますので、そういった意味も含めて、私どもも参画したんですが、非常に見通しが甘かったということはおっしゃるとおりでございますので、おわびをしながら、今後どうしていくか、再度、経営陣と協議しながら進めてまいりたいと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 ちょっと再度確認なんですが、市で長井商工会議所からホテル部門を買うというときに、その取得、ホテルを取得する時点で内容の精査をしていなかったということになると思いますが、再度その辺について、市長、お願いします。

○鈴木富美子議長 内容重治市長。

○内容重治市長 まずは、取得については、不動産的にどのぐらいの価値があるかということがまず基本でございまして、会社の経営についてはまた別だと私は考えておりました。ただし、やっぱりいろいろ考えると、会社も引き継ぎがなきゃいけないのかなと思ったのはその後でございまして、とにかく取得して、国の地方創生の、当時ですよ、拠点整備の、75%という非常に補助率の高い事業、これ商工会議所さん、当然出せないわけなので、我々が全てそれを出して、やらざるを得ないだろうと。その場合のネックになったのが、繰り返しになりますけれども、経営母体が非常に危ういというような国の判断だったようでございます。私どもとしては、商工会議所さんの中身を、どうなってんだなんていっても、やっぱり表面上は私どももちろん書類等々は頂戴しているわけですから、分析して、赤字ではないんですよ。でも、分かりません、裏でどういうふうになさっていたか。商工会議所さんが苦勞して、やっぱり何らかの形で捻出して、赤字にならないようにされてたと思うんですが、そういったところはやっぱりしっかりと我々が、例えば会社を引き継ぐというこ

とでお話をお伺いするとかしない限りは、それは商工会議所さんの、我々と別な法人の会社でありますので、ここについてはもうどうしようもないと。

したがって、取得については不動産鑑定に従って、なおかつ商工会議所さんが合意する金額で取得させてもらったと考えておきまして、それと、経営をまた別の会社でやりたかったんですが、それができないということが分かって、それでは、取りあえず精算してほしいと言ったんですが、その精算が正直なところ、なっとなかったと。したがって、ずっと赤字の体質のまま、我々が引き継いでしまったと。

先ほども申し上げましたように、当面、私どもは、2,000万円の出資金を流用して運転資金賄えるだろうと思っていたわけです。ところが、そのもくろみが当初から違っていたということで、ここが私どもは大変甘かったっていいですか、商工会議所さんを信用してたと、商工会議所さんは商工会議所さんで事情があるんだと思うんですが、そこは私ども、当時は立ち入ることができない部分だなと思っていたところがございます。ということでご理解いただければと思います。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 次にですが、令和3年12月の予算委員会の細部審査で、委員の質疑に対し、市長はこのように答弁されておられます。今までも説明されたところもあるとは思いますが、これは赤字にならないと思っております。思っているというか、確信しています。したがって、例えば運転資金などの借入れなんかも、議会の例えば損失補償を受けてやるというようなことは基本的にあり得ないと答弁されておられます。

この答弁からすれば、このたび訂正された補正予算は、実質的に運転資金であるランニングコストの支援でありますので、市長の答弁とは

相反するものではないかと思うわけですが、市長におかれては、そうした点に対する配慮があって、訂正したと考えてよろしいのかどうか、市長に伺います。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私は、例えば今回の補助金975万5,000円でしたっけ、これについては、物価高騰のための光熱費等々の部分でありますので、損失補償を受けて、運転資金を何とか借り入れするという考え方とは別です。

したがって、国のほうの、まだ具体的には私どもには通知はございませんけれども、岸田総理が9,000億円で物価安定対策、そういったところの今までの臨時交付金ですね、地方創生臨時交付金等々があるものと私ども考えておりますので、それはタスパークホテルに限らず、長井市内の特にそういったことでいろいろ影響あったところについて、特に厳しい部分については支援しなきゃいけないだろうと思っておったんですが、私どもの場合は、そこの部分を前倒しでタスパークホテルのほうに支援をしていただければという考えで、今回単独でその部分を出させてもらったんですね。それは、なかなか運営が厳しい状況ですので、そういったことで考えたわけでありまして。

したがって、損失補償としてお願いするのはまた違うわけですよ、補助金ですから。損失補償はあくまでも債務負担行為でございますので、そのところは、私はそういう意味で申し上げたものではございません。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 最後の質問になります。

新たに株式会社タスパークホテルに指定管理者をもう任せて2年半が経過し、実質赤字運営になっているという状況だと思います。その新役員体制は、代表取締役は鷺見 孝氏、長井商工会議所の副会頭、専務取締役に辻田耕一氏、長井市地域活性化マネージャー、取締役に内谷重

治氏、長井市長、遠藤健司氏、置賜地域地場産業振興センター副理事長、加藤眞佐夫氏、長井商工会議所会頭、齋藤環樹氏、置賜地域地場産業振興センター理事・副市長、監査役2人の8名となっているわけです。このたび、この訂正された補正予算を組まざるを得なくなったという点で、ちょっと先ほど市長の答弁あったかとは思いますが、市長はこの責任の所在についてどのように考えておられるのか伺います。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 責任の所在については、先ほど申し上げましたように、まずはスタートしたばかりです。それから、実は、これは市がきちっとやんなきゃいけないということから、私が代表権を持つ取締役会長になっております。それはなぜかという、鷺見代表取締役社長について、こう、もともと地元で長年経営とか、あるいは地元で様々な仕事に就いておられた方ではなく、もともと首都圏に、あるいは海外等々に赴任されて、そちらが長くて、いろんな事情でこちらにいらした方でありまして、鷺見社長自体は川西に在住でございますが。それで、私どもとしては、もう今の時点で責任どうのこのなんて言ってる場合じゃないですよ。とにかく何とかして黒字にしなきゃいけないということでやっていると、役員は処分して、じゃあ、誰が役員するんですか、誰が違う役員入れるんですかと。いや、確かにもっと優秀な方いるかもしれません、経営についてはね。だけでも、無報酬でする方なんていらっしやらないですよ。

実際、取締役の中で、タスパークホテルから報酬が出てるのは、社長の鷺見社長、それから監査役お一人といっても、大した金額ではございません。あとそれ以外の方、みんな無報酬なんです。責任の所在、何だと、まだスタートして2年目ですよ。しかも、先ほどから申し上げてるとおり、営業体制もない、社員の体制ももうほとんど崩壊していると、それを何とかしな

きゃいけないと。

ですから、専務取締役だった辻田総支配人、降格ということで平取にしましたけれども、彼もタスパークホテルからびた一文もらってないですよ。でも、彼は常勤の役員として、この2人が常勤ですから、その責任を感じて降格を申し出たということであって、じゃあ、私が降格して、じゃあ平取になって、それで済むかと、そういう問題じゃないですね。もう、やっぱり会社の状況をぜひ議会の皆様にしっかりとお示ししなきゃいけないと思って、今回、私は取り下げたんですよ。

ですから、平議員がここでおっしゃるように、責任どうなんだと、言ったことと違うんじゃないかということでおっしゃるとしたら、もう申し訳ありませんと、それしかございません。大変すみません、よろしくお願いします。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 いろいろ答弁をいただきました。

いずれにしても、このたびの補正予算については、訂正という形で撤回を提案されたわけですが、市長は取下げだというようなお話ですが。しかしながら、担当課長の説明いわく、今々、資金が必要ということでもありますので、近々、臨時議会なども開く必要があるのではないかと考えております。

市長は提案説明の最後で、今後、より一層丁寧な説明を尽くし、改めて提案させていただきたいと考えておりますので、何とぞご承認賜りますようお願い申し上げますということで結んでおられます。その際は、ぜひ、今申し上げましたようなことなどを考慮していただき、提案していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

○鈴木富美子議長 ほかにご質疑ございませんか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○鈴木富美子議長 質疑もないので、質疑を終結

いたします。

それでは、討論を行います。ご意見ございましたか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○鈴木富美子議長 意見もないので、討論を終結いたします。

それでは、採決いたします。

議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正について、承認することに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○鈴木富美子議長 起立全員であります。

よって、議案第54号 令和6年度長井市一般会計補正予算第6号の訂正については、承認することに決定いたしました。

散 会

○鈴木富美子議長 本日は、これをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午前10時51分 散会